

高知県の30歳以下のNPOスタッフへのインタビューです。



NPO法人佐喜浜元気プロジェクト 松尾 拓哉さん

●活動に参加することになったきっかけはなんですか？

2年前に移住で佐喜浜に来たのですが、その頃に佐喜浜元気プロジェクトで活動していた知人に誘われてNPOに入りました。この地域のことや人をもっと知りたいと思い、そして、自分のことも覚えてもらい、いろんなつながりを作りたいと思っていました。

●普段はどんな活動をしていますか？

主にイベントの企画運営を担当しています。特に力を入れているのが「ジオ市」です。年8回くらい行っています。同じ年代の人たちもいるので、一緒にイベントを企画し、つくり上げていくなかで、メンバーのつながりが深まっていきます。地域の人たちも参加してくれますので、若者×地元×移住者の協働で中身も充実してきています。大変なこともあります。楽しみながら活動をしています。ピザ窯も作ったので、特製のピザをジオ市で販売しています。

●活動で楽しいことや魅力に感じることは何ですか？

活動をしていると地域の人が声をかけてくれるようになりました。やはり活動を続け

て良かったと思うのが「人のつながり」ですね。イベントなどで地元の人や子どもたちと話す場ができたことは本当に嬉しく思います。

●趣味や特技は何ですか？

魚釣りが好きでそれが趣味なのですが、今は仕事（漁師）になってしまいました。

●室戸の魅力教えてください。

地域の人が温かいです。移住してきた僕たちにも気軽に声をかけてくれます。そして、見ての通り自然豊かで、海が好きな僕にとっては、とてもいい環境です。

●これからの夢や展望について教えてください。

将来の夢は室戸に「水族館」を作ることです。全国的にも増えてきていますが、魚釣りもでき、調理して食べることができる魚をまるごと「体験できる水族館」を作りたいと思っています。室戸は魚種が豊富で魅力のある海があるので、子どもたちに地域の特色を「見て、食べて、知って」もらいたいと思っています。まずは、学校に魚のことを教えに行ったり、イベントなどで移動水族館をしながら魚の魅力を伝えていきたいと考えています。

てをつなご

発行・編集：高知県ボランティア・NPOセンター
〒890-8567 高知市朝倉1375-1 高知県立くし交流プラザ4F 高知県社会福祉協議会内
Tel 088-850-9100 Fax 088-844-9882 E-mail:kvno@pippikochi.or.jp

てをつなご

2018.Summer vol.119 年4回発行

CONTENTS

Awesome NPO
室戸の注目NPO特集

NPO法20周年企画

NPO U-30
NPO法人 佐喜浜元気プロジェクト
松尾 拓哉さん



祝 NPO法誕生 20周年!



2018年は特定非営利活動促進法(NPO法)の制定・施行から20周年にあたります。今回はNPO法と同じくらの年代の高知大学地域協働学部の学生さんにNPOに関するインタビューをさせていただきました。

●NPO(民間非営利組織)って言葉をいつ知ったかな? NPOってどんなイメージがあるかな?

学 中学の社会の教科書で習ったと思います。NPOとNGO(非政府組織)がセットでした。

僕はここでの大学を受験する時に、聞かれると思ってNPOのことを勉強したかな?

NPOは団体ごとに、文化や教育、地域活性化など違う活動をしているイメージがあります。それと、行政や企業間の活動をしているイメージですね。

●高知で知っているNPOってあるかな?

学 実習で行った砂浜美術館! いちいの郷! NPO高知市民会議でボランティアしてます。

僕は部活の関係でYASU海の駅クラブさんと関わったことがあります。

●皆さんはNPOが県内に何団体くらいあると思うかな?



●一番近いのは「69」と書いたお2人! ボランティア・NPOセンターが把握して、こうちボランティア・NPO情報システム(<http://www.pippikochi.or.jp/>)に掲載されている団体が494団体あるけど、登録していない団体もたくさんあるから、県内には500~1,000団体くらいあるかな。このうちNPO法人という法人格がある団体は約300団体ある。

●NPO法の制定・施行から20周年が経つが、20年前の1998年はどんな年だったか知っているかな?

学 私は生まれて数ヶ月だったと思う(笑)。2歳だったけど、何があったか…。

●長野オリンピックが開かれた年!そして、映画では「タイタニック」が流行った年!それに携帯電話ではなく、ポケベルが主流だった頃かな! 20年経つと時代は大きく変わる!皆さんは20年後、今の社会がどうなっていると思うかな?

学 どんどん少子高齢化が進んで子どもが少なく、田舎に人がいない…何かマイナスばかりですね(笑)。

AIが主流になっている時代かな?AIのことを学ぶために大学に2回行く時代になるとか…。

インターネットを使って働くことが主流になったり、インターネットが中心でテレビや新聞などのマスメディアがなくなるかも…。

たくさんの外国人が日本で働いている気がする。それに歩行者用高速道路ができてどこにでもすぐ移動できるようになってたらいいな…。



●20年後のNPOはどうなっていると思う?

学 AI化とかが進んで、逆に人の温かさに触れ合う機会が大事になる気がします。20年後は一人一人への寄り添いがニッチな部分になりそうです。そうした人との関わりや寄り添いを創り出すところにNPOの役割や期待が大きくなっていると思います。

●時代が変わっても企業や行政が対応できない「スキ間」が生まれ、NPOによる活動は必要とされるということだね。これからもNPOが活躍できるよう、僕たちも応援するよ!今日は、ありがとう。

NPO法豆知識

1995年1月17日に起こった阪神淡路大震災では、150万人のボランティアが活動して、被災者や被災地の支援に大きな力になりました。こうしたボランティアをはじめとする市民が行う自由で主体的な多様な社会貢献活動への関心と期待が高まり、こうした活動を発展するためにできたのが特定非営利活動促進法(NPO法)です。

高知県でも98高知豪雨災害を機に、ボランティアへの機運が高まり、高知を良くしたい、地域を良くしたいと活動する団体が増加すると共に、NPOへの関心が高まり、1998年に高知市民活動サポートセンターが、1999年に高知NPOセンターが誕生しました。



「室戸の魅力発信NPO」

室戸には、海、山、川の大自然と、昔からの町並み、そして人の温かさを感じられる魅力がいっぱいあります。今回は、そんな魅力を発信している室戸のNPOの取り組みを紹介します。きっと皆さんも訪れたいこと間違いなし!



NPO法人 吉良川町並み保存会

室戸市吉良川町甲2200-1
連絡先 0887-25-3670
<https://www.facebook.com/kiragawa1997/>

明治時代にタイムスリップ!? ここは国の重要伝統的建造物群保存地区に選定された吉良川町並み保存地区。白壁や水切瓦の建物といしぐろによって独特の町並みが構成されています。吉良川町並み保存会は、吉良川の歴史や文化建物についての資料を集めた「まちなみ館」の管理運営を行いながら、町並みの修理・修景を奨励し、町並みのガイドをしながら歴史的遺産であるこの町並みの活用を進めています。また、休日には、吉良川の町並みを活用した様々なイベントを開催しており、地域外からもたくさんの観光客が訪れています。



町屋に飾られた豪華なお雛様♪

注目! 東部7地域で行われている「土佐の町家 ひなまつり」の会場として、毎年3月3日を基準にした週末の4日間は、吉良川の町並みの家々にお雛様が飾られて、様々なイベントも行われています。その4日間のイベント期間を挟んだ前後20日間は、吉良川まちなみ館、べっぴんさんの家、おまつり館でもお雛様を飾っています。また、地域物産の販売やイベントが行われる「ふるさと市」や町並みの関所を駆伝する「飛脚レース」など季節ごとにもイベントが開催されています。



NPO法人 佐喜浜元気プロジェクト

室戸市佐喜浜町3667
<https://ja-jp.facebook.com/npo.sakihama/>

おいしいものがいっぱいのジオ市。佐喜浜元気プロジェクトが毎月4日曜日に、旧佐喜浜保育所で開催している日曜日(佐喜浜ジオ市場、通称「ジオ市」)には、地元の野菜をはじめピザや焼き鳥、こけらげなどが並び、地域内外の方がたくさん訪れています。近年では、ももとの佐喜浜町住民に移住してきた新しい方も加わり、両者が連携しながら室戸市佐喜浜町を元気にする企画や事業等に取り組み室戸市の振興発展を目指して活動しています。



毎回大人気!の「ジオピザ」

注目! ジオ市のおススメは、特製のピザソースに地場の野菜や魚介類を使った「ジオピザ」! 石窯で焼かれたアツアツの状態の販売されるとともに、ピザ焼き体験もできます。また、夏にはビールとピザが出店するビアガーデン風の「夜のジオ市」、秋には県内外のフードや雑貨などのショップが並ぶ「秋晴れジオ市 さきはまびより」が開催されるなど、地域を盛り上げるイベントが目白押しです。

NPO法人 夢創房室戸迎鯨の杜

室戸市浮津823番地2
連絡先 090-8694-9104
メール geiginomori@yahoo.co.jp



室戸の自然を満喫できるイベントが盛りだくさん! 夢創房室戸迎鯨の杜は、室戸が持っている海・山・川などの自然や文化などの地域資源を生かし、自然体験イベントや文化教室などを通じて地域内外の交流人口の拡大や地域の活性化を目指しています。また、小学生や中学生を対象にスポーツ交流事業、高齢者・障がい者を対象にニュースポーツやユニバーサルレクリエーションを実施しています。



室戸の大自然のなかで遊ぼう! 学ぼう!

注目! 室戸市外の小学生が参加して室戸の海、山、川をステージに自然体験を行う「むろとチャレンジ・アドベンチャーワールド」。「海彦サバイバル体験」では、魚釣り体験や浅瀬での魚や貝など海生物の観察を行ったり、「山彦サバイバル体験」では、山に入り、谷川で川遊びをしたり、伝統的な石を積んだワナをつくり川魚やエビなどをつかまえたりします。学校では学べない自然の体験の知恵がたくさん学べます。

NPO法人 室戸ドルフィンプロジェクト

室戸市室戸岬町字鯨浜6810番地162
連絡先 0887-22-1245
<http://www.muroto-dc.jp/>



イルカと触れ合うことができる室戸ドルフィンセンター。ここでは「人とイルカとが触れ合い、コミュニケーションをとりながら一緒に楽しむこと」を目指して活動する室戸ドルフィンプロジェクトが運営しています。施設内ではイルカとの触れ合いプログラムを行うとともに、発達障害者等へのイルカ介在活動プログラムの提供などにも取り組んでいます。イルカと触れ合って、イルカの魅力を感じてみませんか?

注目! おすすめは、5つのイルカ体験プログラム! 自由に遊ぶイルカを間近で見る「ハロドルフィン」、イルカのからだにタッチする「ドルフィンタッチ」、イルカにサインを出してイルカとコミュニケーションを行う「トレーナー体験」、ひざまで海水に浸かってイルカと遊ぶ「ふれあい体験」、ウェットスーツを着てイルカと一緒に泳ぐ「ドルフィンスイム」などがあります。イルカを間近で見て、ふれあって、感動間違いなし!



イルカと握手!

NPO法人 椎名集落活動センター たのしいな

室戸市室戸岬町540
連絡先 0887-98-7020



ここは学校!? 2005年度末に閉校した室戸市立椎名小学校の跡地を活用し、2018年4月に小学校の1階部分を改修して集落活動センターが開所しました。センターでは、地元住民により運営委員会が結成され、高齢者の健康づくりとして「げんきクラブはなもも」、地域の子どもの居場所となる「たのしいなこどもクラブ」が活動を始めています。子どもから高齢者まで様々な世代が集う場所として、地域の伝統産業や行事・文化などの情報発信も行っています。また、小学校の2、3階部分にはミニ水族館「むろと廃校水族館」(運営: NPO法人日本ウミガメ協議会)も併設されています。

注目! 毎月2回開催される「ちいさな海のカフェ」! ここには地域の人たちや水族館を訪れた人たちが立ち寄り、おしゃべりをする集いの場となっています。カフェでは手作りのお菓子とコーヒーが300円でいただけます。手作りお菓子は女性を中心とするグループ「椎の実」のメンバーが毎回心を込めて作り地域の方々におもてなしをしています。



おしゃべりに花が咲きます♡